

すみだ食育goodネット



食育の芽

第12号 2018.11発行

発行：すみだ食育goodネット事務局



特集 福島県^{そうそう}相双地域 & すみだ
食育で 夢コラボ

互いの夢をコラボ 新たなアイデアを 育てる!

そうそう
相双地域の方とすみだのメンバーで
「夢コラボ」形式のワークショップを
実施。食育で相双地域の子どもの
生きる力を養うアイデアを探った。



ワークショップ 1部 議論に必要な情報を共有

① あいさつ



FURE
センター長
初澤 敏生氏



墨田区福祉保健部
保健衛生担当参事
岩瀬 均氏

② good ネットの事例報告



過去 10 年間、good ネットが子どもたちと一緒にやってきた食育の取組についてメンバーが協力して報告

③ good ネットが目指してきたこと



目指してきたのは、活動を通して多様な人々のつながりを育み、そこから新たな活動が生まれること

④ 企業による食育活動の展示



2つの企業が子どもたち向けに行っている食育のプログラムを展示・紹介した

山崎製パン(株) (株)明治

ワークショップ 2部 食育で「夢コラボ」

① 「大切・自慢」の共有



自分が大切にしていること、自慢できることを書き出し、グループ全員で共有。(株)やおきん提供のお菓子をいただきながら進めた

② 「大切・自慢」を重ね、アイデアを育む



お互いの「大切・自慢」を重ね合わせながら、子どもたちを育むための食育活動のアイデアを出し合う



ワークショップが開催されたのは10月20日、会場は福島県双葉郡檜葉町の「ヴィレッジ。サッカーのナショナルトレーニングセンターであるため、窓からサッカーコートが見える。

「夢コラボ」とは、good ネットが様々な地域で実施してきたワークショップの進め方。今回は相双地域の参加者と夢をコラボした。

③ アイデアを発表するための準備



発表の練習を通して、お互いのつながりが深まる

④ アイデア発表



各グループとも、ラップや寸劇方式を用いて発表するなどの工夫をしていた

^{そうそう}福島県相双地域と食育 good ネットの新たな交流が始まりました。「福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（以降「FURE」と略）」の「相双地域支援サテライト」が主催するワークショップに good ネットが共催、墨田区が後援することになったのです。

FURE のミッションは、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故で被災した地域の復旧・復興の支援です。今回は、相双地域の子どもたちの「食育」をテーマに取組アイデアを出し合いました。

^{そうそう}相双地域



福島県東部の太平洋沿岸部に位置していて、北部の「相馬地域」と南部の「双葉地域」に分けられる。

相馬地域：相馬市、南相馬市、新地町、飯館村

双葉地域：広野町、檜葉町、川内村、富岡町、大熊町、双葉町、葛尾村、浪江町

夢コラボで生まれたアイデア



夢コラボ大賞

グループ名：ゆずちゃんこ

特産のゆずを使った「ゆずちゃんこ」づくりなど、体験型のイベントの実施。

福をもたらすで賞

グループ名：ゆず太郎ズ

世界一参加したい大人の修学旅行を実施。ゆずの里ツアー、休耕田を利用したお花畑の見学など。



幸を呼ぶで賞

グループ名：双×墨ちゃん

オーガニックコットンの収穫体験を行い、収穫したコットンをすみだの町工場化粧まわしに加工。

縁を紡ぐで賞

グループ名：福たろう

相双地域の田んぼで、地元の子どもたちと、すみだの子どもたちが参加する「泥んこツアー」を行う。



笑顔になるで賞

グループ名：はえぬき…じゃない

相双地域でとれた米をすみだで販売。食を介してお互いが行き来し、つながりを深め合う。

夢コラボ

その舞台裏とは？

現地を見なければ、地域の人が求めていることがわからない。9月6日に福島県の相双地域を視察。現地にふれ、様々なことを感じ考える機会となった。



浪江町の大平山霊園見晴台
津波でまちが消え、海岸まで
草地在広がっていた。



未だに残る「帰宅困難区域」。
民家の前には、立ち入りを制限
する柵が設置されていた



双葉町
以前は水田だった場所に
雑草が茂っていた



檜葉町
水田では稲が育てられ
ていた



案内役の
谷 孝さん

谷さんは、今回のワーク
ショップを主催する「FURE
相双地域支援サテライト」
の教育環境整備担当者

同じ相双地域内でも、状況には大きな差がある

想いを聞き、語り合いながら方向を探る

現地を視察し、「相双地域の人と、
どう向き合うか」について話し合い
を行いました。
十数回行われた打ち合わせのうち複数回
は、谷さんにすまに足を運ん
でもらって意見を聞きました。



視察を通して考えたことや、心にわ
いてきた想いを共有



◀ 谷さんから「相双地域は、帰還困難
区域もあり、解除されて復興に向か
い出した地域もある。様々な課題が
混在している状況にあると思う」との
話があった



プログラムの内容についてグルー
プで話し合ったことを発表する



現地でのワークショップを進行する
際に何を大切にするかを考えた

視察では、震災を体験した木戸川漁業協同組合ふ化場長の鈴木謙太郎さんの話を聞きました。



▲ 震災前の木戸川は7～10万匹もの鮭が遡上する本州でも有数の場所だった

◀ 震災時に鈴木さんが撮影した写真を使い、地震直後、どんな状況になったかを説明してくれた



厳しい状況だったことを体験者から聞いて、視察メンバーの表情が変わった



それでも鈴木さんたちは、あきらめずに取り組みを再開した。その内容について説明を聞いた

そうか、これまで通りでいいんだ!



佐竹 規文子さん

9月末の打ち合わせで「被災地でもある相双地域の方に、どう接すればいいのか悩んでいる」との話が出ました。そこでグループに分かれ、「自分はつらい時期をどう乗り越えてきたか?」を共有したんです。すると「人に話を聞いてもらう」という共通点があって、

私は、「相双地域の方の中にも、ワークショップに参加してよかったと感じる方がいるかも」と思ったんですね。ワークショップのテーマは夢なので、苦しかった過去に囚われすぎなのかもしれないとも。参加された方に「来て良かった」と思っていたくためにも、私が過去に参加したワークショップ同様、一人の人として話を聞くことを大切にすればいいと気持ちを切り替えることができました。

ワークショップを支えた若者たち



ワークショップでは、ボランティアで参加した10名の若者が進行役として活躍しました。



ワークショップ開始前から参加者と語り合う



参加者が話をしやすい雰囲気をつくるため、積極的に話を聴く

数字だけではわからないことがある!

若者にワークショップの感想を聞きました



福永 将也さん

相双地域の方の話を直接聞いたことがよかったです。4月に地域の小学校が再開。通っている子どもは10人ほどですが、秋の運動会に地域の方が約300人集まったそうです。たとえ子どもの数は少なくとも、地域の方にとっては大きな意味があることがわかりました。



清水 健太さん

相双地域の方とgoodネットのメンバー、両者とも相手の話を聞く力、率直に自分をさらけ出す力が強いと感じました。goodネットのメンバーの「応援してほしい夢はありますか?」との質問に、相双地域の方が熱く語ってくれて。おかげで、いい感じでアイデアがまとまりました。



山内 英嗣さん

進行役として議論を盛り上げる必要があるのでは、と考えていたのですが、実際は、すごい熱量でご自身の想いや夢を語ってくださって、いい意味で予想を裏切られました。現地の方のお話を聞いたことは、自分の暮らしや生き方を見直す契機にもなった気がします。

食育の取組

笑顔で取り組むことが
できたのはなぜ？



9月12日に実施された
「人づくりワークショップ」
(good ネット主催)

1部：活動のふり返り



過去の取組をまとめた動画を見る

2部：グループでの話し合い



講師の早稲田大学友成先生から、話し合
いの心構えについて説明があった



自分が体験した「きょうそういく響創育」的な出来事
を順番に語り、共有した

「きょうそういく響創育」が結実するまでの道のり

順調だった食育活動

good ネットは、2015年の「食育推進全国大会 in すみだ2015」で大会運営の一翼を担いました。

さらに、「墨田区食育推進計画(2017～2021年度)」策定のプロセスにも関わり、完成した計画に基づき、昨年度から新たな食育の取り組みを始めました。



2016年12月に実施された報告会のよう
す。区民が進める新たな取り組みのアイ
デアを、寸劇形式で発表した

結論は「すみだの食育」を貫く!

ところが2017年度になると、区の内部で「食育活動はある程度の成果が出たのだから、区の関わりは縮小してもいいのでは」との意見が出て、予定していた活動がなかなか進まない状況になりました。good ネット内では「状況が変わったのだから、活動を進めるのは難しいのでは?」という意見さえ出ました。しかし、何度も議論を重ね、最終的に「すみだの食育」を貫こう!ということになりました。

根底にあったのは「響創育」

今年度の活動方針を議論するプロセスで、「なぜ、笑顔で食育活動に取り組むことができたのか？」について話し合いました。そこで得られたのは、「活動に関わる人たちの間に、『育む』『創る』『響く』の3つの要素があったから」という気づきでした。

気づきを共有するために…

話し合いは「1から始める夢プロジェクト」や総務会議、理事会などで行われました。そこで得られた気づきをより多くの人と共有し、さらに深めるため、9月に「人づくりワークショップ」を行い、話し合いました。

原点は、想いをしっかり受け取ること

good ネットの活動について、もう一度原点に戻り、「響創育」という言葉を生み出した。そのプロセス自体に、すごく意味があると思っています。

今日は、一人ひとりのなかに沈殿している「響創育」的な体験を一回引きずり出して、それをみんなで受け取り合う。そのことを通して、相手との関係がじわーっと深まっていくことを目指しました。そのために、「話し手の夢」を「自分の夢」として受け止め、その実現を応援するディスカッションを行いました。



講師：友成 真一氏
早稲田大学
社会連携研究所所長

相手の夢や想いをしっかり受け取る。それが good ネットの活動の原点だと思いますし、そこから「響創育」も生まれるのではないかと思います。

ワークショップ初参加の方に、感想を聞きました



大澤 裕樹さん
公益社団法人東京都向島歯科医師会

平日の昼の時間帯に、30人以上の人が集まるのはすごいことだと思います。私のように初めての人が参加することで、新しい意見が出ることを求めているのではないかと感じました。目的について説明があり、やっていることはシンプルなのですが、どれも深い意味が隠されているような気がして、とても興味深かったです。



片倉 由美子さん
ヤマトダイアログ & メディア株式会社 代表取締役社長

皆さんイキイキとしていて、活気がありましたね。やらされ感がなくて、講師の先生も一緒に参画されている感じで、非常に参考になりました。組織の中にいると、どうしても話題は仕事にかたよってしまいます。今日はそれを取っ払って、ニュートラルに話を聞けました。話の中で、その方の人生観まで聞けて、とても新鮮な体験でした。

笑顔が乗り越える力になった

2017年度は、事業をこなすのが精一杯という状態が続き、「メンバーの負担を減らすために、事業の数を減らすべき」という意見も出ました。それでもなんとか実施できたのは、笑顔で活動に取り組めたからです。その姿を見た人たちの中には、応援者も現れました。悩み、苦しみながら乗り越えた1年でしたが、新たな人のつながりも生まれ、今後も活動を続けていく希望が得られたのです。



過去の寸劇を記録した動画を見るメンバーたち

「0からの響創育」を活動指針に

2018年度を迎え、今後も活動を推進していくために、過去の活動をふり振り返り、人とつながり、笑顔の食育が生まれた理由について話し合いました。すると、取組を伝えるための「寸劇」が一番楽しかったとの声が多く出ました。どうして楽しかったのか？ 結論は「関わる人の間に『育む』『創る』『響く』の3要素があったから」。この3つを大切に「0からの響創育」を good ネットの活動指針としました。

新座市&すみだ 食育で 夢コラボ

埼玉県の新座市で実施されている「すみだ新座市民総合大学」の授業で、good ネットのメンバーが『食育でかなえる私の「夢」体験』を担当しました。



新座とすみだのメンバーと一緒に、食育でかなえたい夢について話をした

7つのグループが、グループ毎にメンバーの夢をまとめ、楽しく発表し合った



10年間の食育活動 振りかえってみると？

大変なことも少しずつ頑張ると、感動がありました。何かを学び、お互いに育み合いの場になることに気づきました。

達成感や感動を経験して、自信につながりました。自分がやれることで、人に喜んでもらえる楽しさを味わいました。

すみだ食育推進リーダーが、体験を通して気づいたことを語りました

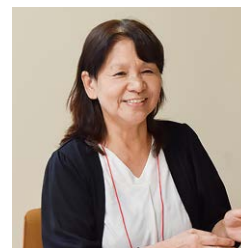


逃げずにやり続けたことで、自分の世界が大きく広がり、物事をポジティブに考えることを意識するようになりました。

講義を受けて感じたこと

受講者の山下房枝さんに話を聞きました

すみだのワークショップは、すごいですね。いろんな方のいろんな話が聞けて、新しいアイデアが生まれる。過去の活動を聞いて、同じことができるといいなと思いました。「これから何をすればいいんだろう」と思ったとき、目標になります。



食育人に 会いに行こう

歯科医師として、診療所から地域に出て在宅治療を始めたのは、good ネットに入会して、食育活動のお手伝いをするようになったことが大きい、と思っています。食育活動に関わるようになって、地域の方と直接話す機会が増えました。そのうちに、入院された方や在宅で介護を受けている方が、歯の問題だけでなく、食べ物の飲み込みなどでお困りになっているとわかってきました。こうした問題を解決するには、管理栄養士さんなど、いろいろな職種の方と協力しながら進めていくことが不可欠です。その意味でも、食

相双地域と新座市のワークショップに参加。新座では寸劇にも出演した大久保 勝久さんに話を聞きました

育を通して、地域の中の様々な方とつながることができたのは、とても大きかったと感じています。歯科医師の本来の使命である、自分のお口で食べることの支援は、高齢者の健康寿命を延ばす上でとても重要です。「完結期までの食支援、つまり人生の最期まで自分のお口で食べること」は、食育が目指すところと共通していると思います。今後も、good ネットの皆さんや、食育活動を通してつながることができた方々と協力しながら、少しでも地域の皆様へ貢献していきたいです。



大久保 勝久さん

歯科医師。公益社団法人東京都向島歯科医師会副会長。在宅歯科医療に積極的に取り組んでいる



新座市のワークショップで寸劇に参加した仲間と記念撮影